



日本聖公会婦人会 2026年2月27日発行
ニュースレター No.80

「林歌子のいた教会、教区から」

日本聖公会
大阪教区主教 バルナバ 小林聡



初期婦人会が婦人補助会と呼ばれ、初代会長が林歌子であったことを覚える時、林歌子が博愛社（児童養護施設等を運営）や聖贖主教会草創期に関わられ、その活動の拠点だった教会、施設、大阪教区にいて感じることを書いてみたいと思います。

林歌子は福井県大野出身で、東京でウイリアムス主教から洗礼を受け、子どもたちや女性たちが受けて来た困難を共に担う決意をされた方でした。私が想像するには、林歌子は多くの子どもたちの困難や女性たちの困難に触れ、そのことを自分のこととして感じると共に、女性の自律・自立を、自分の自律/立として、また困難を抱えさせられている人の自律/立としてそれらを共に成していこうと強く感じ取っておられたのではないかと思います。

そこにはパイオニアとしての姿がありました。特にかつて日本にいくつもあった女子神学校は自律/立をその学びと実践の柱としていましたので、女性たちのシスターフッド（姉妹連帯）の心であり、それは今につながるキリストの宣教でありました。

聖贖主教会の玄関入り口には林歌子に贈られたアメリカ聖公会からの感謝状が掛けられています。教会が打ち捨てられた子どもたちや女性たちのために祈りと支えになろうとしてきたこと、そしてそのための支援要請のためにアメリカに渡り支援を呼びかける旅をされたことが、そのプレートを見るたびに心に響いてきます。その生涯は子どもたちと女性たちと共にありました。

戦中、ロンドンの軍縮会議に参加する時、大阪聖パウロ教会信徒の岡本新次郎さんから、軍縮ではなく軍事力全廃をアドバイスされ、その思いを胸に海を渡ったことも、大阪教区にいて知るところとなりました。

林歌子たち婦人矯風会が企画する廃娯運動の講演会には必ず大阪教区名出主教が参加し応援されていました。それらのうねりというものは、今では想像もできないくらいのエネルギーに満ちていたように感じます。大阪教区事務所の近くの阿倍野にある林歌子の墓碑には地球儀が据えられており、その地球儀には世界平和の言葉が刻まれています。林歌子はこの地球に生きるすべての人と共に生きることが信仰であることを今に伝えてくれているように思います。林歌子たち先人の祈りと活動は、今だからこそ私たちに一步を踏み出す励ましを与えてくれているように思います。

今この時、世界中の子どもたち、女性たちが直面している困難を共に担えるように、祈り求め、動いていけたらと思います。

ご挨拶

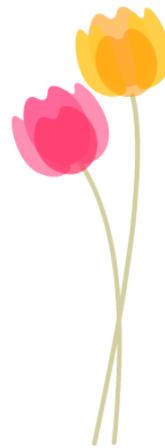
日本聖公会婦人会 会長 エステル 加納 佳世子

昨年6月、日本聖公会婦人会第28(定期)総会において大阪教区が会長選出教区となりました。日本聖公会の教区再編が進む中で、大阪、京都、中部教区から祈りのうちにとっても頼りになる方々が呼び集められました。感謝です。10月に前役員会からの引継ぎを経て、新役員会がスタートしました。Zoomを用いての役員会を行っています。

日本聖公会婦人会の活動は、1.感謝箱献金の推進とお献げ先との関係の構築 2.会員・教会に連なる人・教役者が主体的に学ぶための支援(被献日献金活用) 3.会員間の情報交換と交流です。

長きにわたり引き継がれてきた婦人会の働きが、少子高齢化や社会状況の変化により、教会婦人会の解散等で、多くの教区婦人会は担い手を得る困難さに直面しています。

婦人会の在り方について考える「教区婦人会を考える会」が多くの教区で立ち上がっています。婦人会を無くす選択ではなく、どのようにすれば、次の世代に引き継いでいけるか、教区の垣根を越えて一緒に祈り求めていきたいと思います。今後とも日本聖公会婦人会の働きをお憶え頂き、お祈り、お支え下さいますよう宜しくお願い致します。



2025年度被献日献金活用実施報告

<神学生枠>

聖公会神学院 1年生
グレース 神志那 愛恵 (東京教区)

主の平和がありますように

みなさまのお祈りとお支えに心から感謝します。2025年度、聖公会神学院に入学しました神志那愛恵です。まだお会いしたことのないたくさんの方にも、このメッセージが届くと思うと嬉しいような恥ずかしいような気持ちです。どうぞよろしくお願いいたします。

今年度は、いよいよ神学に向き合っていく初めの一步として、『旧約新約聖書神学事典』『旧約新約聖書大事典』の二冊の購入についてご支援いただきました。日々の学び、特に聖書内容試験の授業準備で大変重宝しました。恐らくどちらも一生の相棒になると思います。大切にたくさん使って、自分だけの事典に育てていきたいです。

神学院に入学してから、時間の進みがこれまでの人生の倍速になったような気がします。授業準備や課題に追われるばかりですが、「なぜ、わたしは神学するのか」「何のための学びなのか」を見失うことなく、神さまと、自分と、勉強と、向き合っていきたいです。



ウィリアムス神学館 2年生
セシリア 浅海 由里恵 (大阪教区)

いつも、お祈りとお支えをありがとうございます。

今回、皆さまのご支援により、聖書原典を読むために欠かせないギリシャ語辞典をはじめ、日本語で書かれた聖書注解書、礼拝学・教理学関連書など計11冊を購入させていただきました。現在、ギリシャ語、新約釈義、礼拝学の授業などで実際に活用しており、レポート作成や霊性神学の学びなどに役立っています。

2年生となり、学びはより専門的になりました。自主的に学び、考え、少しでも内側からも自分を育てられるように努めています。(卵の殻を内側からこつこつと割っているような歩みです。)

こうした学びと共に、昨年度から週に一回近隣教会での子ども食堂で地域の子どもたちと食事を共にする機会も大切にしています。そこでの交わりの時間も私にとって学びを支える大切な土壌となっています。

残り1年となりました。皆さまの祈りと支えとお守りに感謝し、学びと奉仕に励んでまいります。



聖公会神学院 3年生
アンデレ 川島 創士 (中部教区)

主のみ名を賛美いたします。

日頃からの祈りとお支えに心より感謝申し上げます。神学校入学一年目より、毎年この被献日献金を通して必要な書籍を与えられ、主に守られながら学びを続けることができました。皆さまが祈りのうちに覚えてくださっていることを思うたび、大きな励ましと支えを感じております。そのような歩みの中で、あっという間に三年生となりこの四月から牧会の働きへと遣わされることとなります。

今回の被献日献金では、教理の学びのため、近藤勝彦先生による組織神学分野の必読書を購入いたしました。卒業しても日々の学びは継続していきたいと思っております。これまで注がれてきたお祈りとお支えに感謝しつつ、主に委ねられた務めを大切に歩んでまいります。



※北海道教区の横山光紀さんについては、「書籍は大切に学びのために使わせていただきました。感謝申し上げます。9月末に聖公会神学院を退学し、現在北海道教区に戻りましたが、折りに触れその書籍を読み直しています。」とのことです。



<教区婦人会卒>

北海道教区婦人会

「北海道教区婦人会第41(定期)総会」を終えて

沖田 京子

2025年9月4日(木)～5日(金) 主教座聖堂札幌キリスト教会に於いて総会を開催致しました。

暑い日でしたが、50数名の教役者、代議員(10教会)、会員が各教会より集まりました。2日間の総会はコロナ禍後始めてで、喜びの中の開催でした。遠くよりご出席の皆さんと少しゆっくりお喋り出来る事を願ってでした。東北教区の長谷川清純主教様をお招きし、礼拝のお説教、講話と担って下さり本当に嬉し



く心より感謝申し上げます。議案は全て可決し、懸念していた規則の改正もすんなり決まりほっと致しました。時間が予定より早く終わり、ゆっくりとお茶とお菓子でお喋りタイムとなりました。夕食の時間を早めて次のプログラムとなりました。

長谷川主教様の講話です「婦人会のこれからについて想いめぐらす」沢山の励ましを頂きました。また、笹森主教さまの開会挨拶で書籍を紹介「ハーフ・ザ・スカイー彼女達が世界の希望に変わるまで」(ニコラス・D・クリストフ&シェリル・ウーダン著)タイトルは「空の半分は女性が支えている」中国のことわざに由来する。登場する女性達の現状は現代の出来事か信じられない、想像以上の悲惨な状況等をお話くださいました。時間を早めて一日は修了。

二日目朝の礼拝後や、次期当番教会の選挙のみで一回の選挙で札幌聖ミカエル教会が当選しました。受けて下さり、ご挨拶後、お祈りをして終了となりました。終了後はミニバザーで大いに楽しみました。

二年間、日聖婦、教役者、婦人会のみな様に支えられましたことお礼申し上げます。



東北教区婦人会

東北教区婦人会総会・セーフチャーチ研修会を終えて

会長 赤坂 康子

東北教区婦人会では教区ハラスメント防止・対策委員会の協力も得て、全教会信徒対象に2025年2月22日(土)に仙台基督教会にて第49回東北教区婦人会総会・信徒研修会「セーフチャーチにしよう！教会が全ての人にとって安心できる場所となるために」を開催しました。50名程の参加でした。開会礼拝は長谷川清純主教による司式、笹森田鶴主教のお説教をいただき、午後からの研修会では笹森田鶴主教からは「セーフチャーチってなに？～知ることから始めよう～」、吉谷かおるさんからは



「ジンバブエの全聖公会セーフチャーチ委員会会議に参加して」の貴重なお話を伺いました。教会が誰をも大切にする共同体へとなるように、私たち一人ひとりが考えていくことの大切さを学びました。研修会終了後、東北教区婦人会総会を開催。諸報告・議案は書面議決にて予め承認を得ていましたので、今後の東北教区婦人会について話し合いました。被献日献金から交通費・講師謝礼等に対して6万円の御支援をいただきましたことを感謝申し上げます。

横浜教区婦人会

会長 林 洋子



2025年5月27日～28日横浜教区「女性の集い」を開催しました。2年に一度の交流の場であり「つながり、交わり、語らい」をテーマとし、婦人会の活動がない教会、休止している教会の方々も参加していただけるよう従来は婦人会大会ですが名称を変えて静岡県の西端浜松に集まりました。初日は、礼拝後、聖公会神学院の武藤主教様から今まで経験されてきた主教様ならではの話を伺い、夕食後には恒例のミニバザーもありました。2日目はこれからの婦人会について各教会

からの現状を話し合い分ち合いの時を持ちました。婦人会のある教会は減り、婦人会の代わりに奉仕グループができた、教人会の担い手がいないけれど婦人会の働きはつなげていきたい、またこの交流の場をどういう形か続けてほしいという声は大きかったです。参加者は77名女性の力は大きいと感じました。被献日献金からの支援ありがとうございました。



大阪教区婦人会



会長 辻 節子

大阪教区婦人会の2025年度「秋の修養会」は10月18日(土)、「関西いのちの電話」事務局長・柴守昭氏をお迎えし、「人の声に耳を傾ける」と題して大阪聖パウロ教会で開催されました。このテーマは2023年日本聖公会宣教協議会で出された呼びかけの一つに呼応するもので、「眠らぬ相談窓口」として24時間、365日、困難の中にある方々に寄り添う現場のお話を伺いました。「となりびととなるために」私たちには何ができるか、考えさせられました。



例年、福音記者聖ルカ日に開催する「秋の修養会」ですが、今回は土曜日と重なり、会員以外の方々も含め96人が集いました。また、会場の創立140周年を迎えられた大阪聖パウロ教会は12月末で閉鎖されることになり、名残を惜しむ姿があちこちで見受けられ、講演後のバザーも大盛況でした。被献日献金の活用は、講師謝礼と会場費等に充てさせて頂きました。思い出に残る、恵みに満ちた修養会となりましたことを、感謝をもってご報告いたします。

沖縄教区婦人会

会長 佐久川 正美

2025年10月13日 平和学習会 「命どう宝・安全保障」
「平和を造る人々は、幸いである。その人たちは神の子とよばれる。」

マタイによる福音書 5章9節

戦後 80 年を迎え、この節目に当たり平和学習会で沖縄が歩んできた悲惨な歴史を学び、沖縄戦の深い悲しみと癒えない傷跡を生活の中で課題として担ってきました。本土防衛の盾にされ、多くの住民が巻き込まれ犠牲となり尊い命を失いました。242,000人が犠牲となりました。2025年の教区婦人会の活動として「命どう宝・安全保障」の学習会は、皆様の尊い献金の被献日献金によって開催されました。日本聖公会婦人会との繋がり、祈りによって支えられました。教区婦人会開催の学びによって、平和を繋げるためでもあります。教区婦人会の学びは、何より自分が新しくされるという経験になります。被献日献金・感謝箱献金は神の共同体の体として、人々への献身と神の業と共に生き地域支援によって賛美・感謝するために創設されました。神は、私たちに感謝する心を与えてくださり、感謝することで、私たちの心を神様に向けてくださいます。感謝することによって自らの信仰告白、考え方の軸となる教会の信仰を祈りつつ深めていくことができます。

感謝と賛美は私たちの務めです。神がそう望んでおられるのは、それが私たちにとって必要だからです。あなたにとって被献日献金は、どの様な助けになりますか、と聞かれましたら、「私にとって献金の感謝は、私たちがその恵みに対して感謝を表し神が、私たちによって感謝、賛美されるためです。」と。

「私は歌をもって神の名を賛美し 感謝をもって、神を崇めます。」詩編 69 編 31 節



<有志グループ枠>

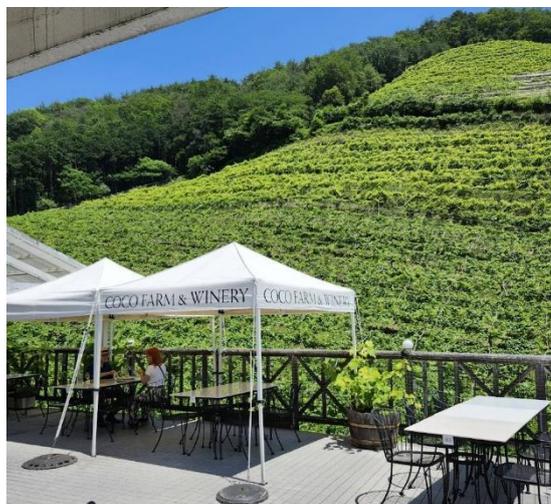
「こころみ学園の共生を学ぶ…ココ・ファーム・ワイナリー見学会」に参加して

大宮聖愛教会 ぶどうの木 会長 齋藤 道子

1958年、栃木県足利市の傾斜地に特殊学級、現在の支援学級の中学生達とその担任川田師により葡萄畑が開墾され、その麓に指定障害者支援施設こころみ学園が設立。そこをきっかけに出来たのがココ・ファーム・ワイナリー。この歴史と園生の日常を学び障害者への理解と支援に繋がりたいと、この見学会を企画し、6月17日、29名の参加を得て開催した。

ワイナリー見学で、園生が急斜面の草刈りなど皆何かの形で醸造に関わっていると知る。現在、終身施設のため半数が高齢者で、斜面での作業困難、厨房委託など新たな問題を抱え模索中との事。残念だが働く姿は急斜面作業の数名程で生活棟の見学は叶わなかったが、訪

問してこそこの学びに感謝した。テイスティングとランチでは、こうして出来た極上のワインに会話が弾み、思いを巡らせた。帰路で足利学校に立ち寄り教会に戻る。猛暑での無事を感謝して帰宅の祈りをお捧げした。この学びに貴重な被献日献金から補助を頂きましたことを感謝申し上げます。



編集後記



3教区の協力の下、編成された役員会は、月に一度、対面あり、オンラインありと、ハイブリッドで会議を行っています。他教区の状況やご意見を伺うことのできる貴重な時間となっています。会員数が減り教区婦人会から抜ける教会が増えるなど、どこの教区も同じ状況で、今後のことを考えるとつい後ろ向きになりがちですが、130年以上続いてきた婦人会の働きを大切に、今の私たちにできることを前向きに考えて進めていきたいと思っています。

副会長 ユニケ 山本久美



※ 次ページ以降に「ガリラヤのほitori 45号」を掲載しています。「ガリラヤのほitori」は裏面からお読みください。

日本聖公会婦人会

〒545-0053 大阪市阿倍野区松崎町 2-1-8 日本聖公会大阪教区事務所内

TEL : 06-6621-2179 FAX : 06-6621-3097

E-mail : nipponseikokaifujinkai@cwo.zaq.ne.jp

日本聖公会婦人会のホームページを随時更新しています。

『ニュースレター』『ガリラヤのほitori』も掲載しています。

ぜひご覧ください。

<http://www.nskk.org/fujinkai/>

